

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第6号

イチゴのうどんこ病およびハダニ類の発生について

イチゴのうどんこ病については、平成26年12月18日付け、26農林試第7353号技術情報第5号において注意喚起したところですが、年明け後も例年に比べて多発傾向にあります。摘果・摘葉、薬剤の予防散布のより一層の徹底、ハウスをこまめに換気するなど、発病しにくい環境づくりに留意し、発生拡大、まん延の防止に努めてください。

また、イチゴの作が進むにつれ、ハダニ類が多発しているほ場が見られ、向こう1カ月の気象予報でも、やや多発の条件となっています。多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底しましょう。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：うどんこ病、ハダニ類

3 発生状況

(1) うどんこ病

①1月3半旬調査の結果では、12月3半旬に比べて発病株率は低下したが、発病株率4%の調査地点が見られた。

②調査地点以外では、例年に比べて発生が多く確認されている。

・1月3半旬の発病株率 **0.4%** (前年 0%、平年 0.9%)

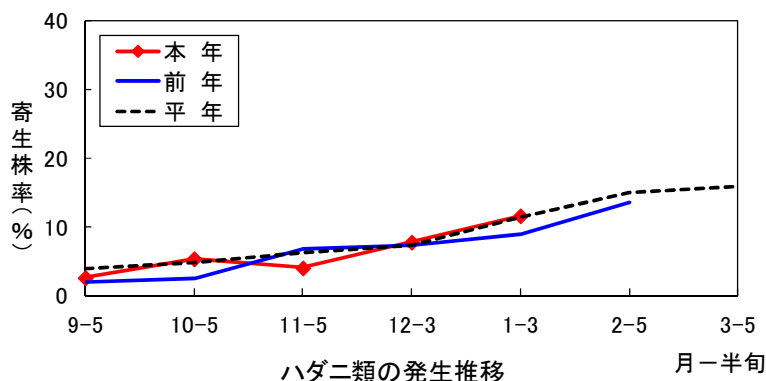
・12月3半旬の発病株率 **1.7%** (前年 0%、平年 0.6%)

(2) ハダニ類

9月5半旬に本ほでの調査を開始して以降、1月3半旬まで寄生株率は増加傾向にある。

・1月3半旬の寄生株率 **11.6%** (前年 9.0%、平年 11.4%)

・1月3半旬の発生ほ場率 **41.7%** (前年 39.1%、平年 63.9%)



#### 4 防除上注意すべき事項

##### (1) うどんこ病

- ア 하우스内の多湿により発病が助長されるので、こまめに通風・換気を行う。
- イ 罹病葉や罹病果の早期発見に努め、見つけ次第速やかに除去する。
- ウ 古葉かぎで罹病葉を除去した後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
- エ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- オ 被害の拡大を防ぐため、薬剤散布と併せて硫黄粒剤のくん煙処理を行う。なお、薬害を生じないように、処理時間には十分注意する。

##### (2) ハダニ類

- ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- イ 各種薬剤の感受性が低下しており、多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



うどんこ病の葉裏での病徴



うどんこ病の果実での病徴



ナミハダニの雌成虫および卵